



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2017 開校！

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水をとりにくささまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。

連続講座レポート

第1回 「水の学校 2017」開校式

～もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

2017年6月17日、平成29年度の水の学校連続講座が始まりました。邑上守正武蔵野市長と橋本淳司名誉校長からは、受講生の皆さんへ激励の言葉が贈られました。今回の講座では、修了生である「水の学校サポーター」が、クイズ進行や活動の解説などを担当し、このニュースレターの中でも講座のレポートをしています。

活動1 むさしの水クイズ

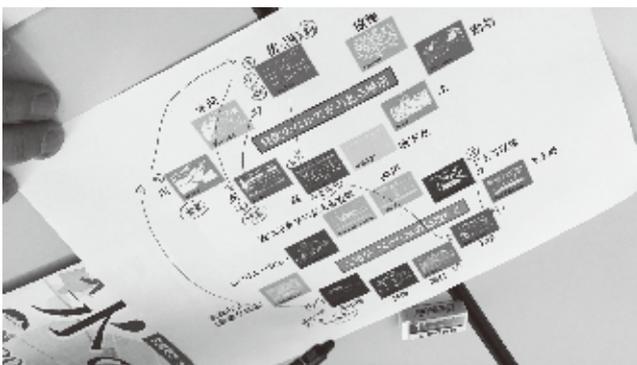
レポーター：水の学校サポーター良島さん

受講生とサポーターの一部が参加し、2人1組になって、「武蔵野市民が1日に使う水道水の量はどれくらい？」など、身近な水に関する4択クイズ(9問)に取り組みました。受講生からは「簡単なようで、案外難しい……」の声が多く、全問正解はなく、8問正解が3組だった。引き続いて、司会者が「水に関連する名前の人は？」と質問したところ、「川」の字が入っている人、名前にさんずいの字がある人などが水に関連した名前の回答としてあがりました。

活動2 ブルートラベラー

参加者それぞれが水のつづになりきって、自然界や都市、農村など地球上を巡る体験を行いました。水の循環を手軽に体感できるため、毎年度の初回講座で恒例のアクティビティとなっています。サポーターは水先案内人として、迷える旅人の誘導、「浄化槽とは？」といった質問に答える各地点の解説役を担いました。

「水の惑星」と言われる地球ですが、その97.5%は海水で、1.7%が氷河など、0.8%が地下深くの地下水であり、河川や湖沼などの人が利用しやすい状態で存在する水はわずか0.01%しかありません。(出展：国土交通省 世界の水資源)



旅の記録を共有して、水がどのように動いたか考えます。

活動3 正当な価格

レポーター：水の学校サポーター千葉さん

架空のまちの上下水道コンサルタントとして、地図を見ながら水道管を設置するルート、下水処理場を設置する場所を決め、提示されている条件に基づいて費用を計算するグループワークを行いました。

①上水道

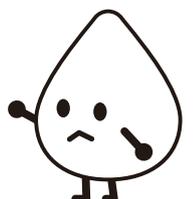
地図上の水源(井戸地帯)から浄水場まで原水導水管の設置ルートを決め、費用を算出する作業。各グループの算出結果は4763万円から5995万円までであった。4千万円台は1グループであった。

②下水道

六ヶ所の下水処理場候補地のうちから、下水収集地点から排水用経路を計画するのに最適と思われる処理場を定め、経路を図示し、費用を概算する作業。下水処理場候補地として[1]、[2]、[3]を各1グループが、[6]を2グループが選んだ。費用はいずれも5億円に近い数値で、①より10倍高値であった。

今日の作業としては最も頭脳を使う作業であったと思います。聴講者からは「現実にあっていない」「土地の傾斜が解らない」「条件が不完全で費用算出ができない」などの意見がありましたが、上水道、下水道に要するコストが少し身近になったかと思われます。

なんとなく使っている水道水、下水道の利用にはこんなに費用がかかるのですよ、ということ伝えたい課題であると思いますが、説明不足で「正当な価格」というタイトルにももう少し説明があると理解されやすかったように感じます。



橋本淳司水の学校名誉校長より ～開校式・第1回講座後のコメント

年数を重ねるごとに成熟していく感じがあり、本当に素晴らしいと思います。参加者のみなさま、サポーターのみなさまこそ、武蔵野市の宝です。サポーターのみなさまには参加者の疑問や意見に耳を傾けていただくなど、助けていただきました。ありがたいと思うとともに、水の学校の厚みを感じました。サポーターのみなさまの終了時のコメントは、「本番はこれから」というエールに聞こえました。

今回、プロジェクト WET アクティビティ「正当な価格」を実施しました。専門家の目で見ると疑問や違和感が出るかもしれませんが、市民の学びの目標値としては、上

下水道インフラにコストがかかっていることがわかれば十分と思います。

また、学びの手法は参加者・サポーターのみなさまでどんどん改善していただければと思います。

受講生の声より

- 「正当な価格」では、下水処理場の水を最終的に川に流すことを考えず川の上流に処理場を選んでしまった。こんなスケールの大きなことを考えられるんだとびっくりした。
- ブルートラベラーでは産業活動や生活に使える水が非常に少ないと感じた。
- 水の循環、再生の大切さ、いかに多くの人に関わっているかを痛感。

オープン講座&イベント レポート

5/3 (水・祝) 武蔵野ファミリーフェスタ 環境部ブース出展

環境部合同ブースの中で答えを探す環境クイズやスーパーボールすくいなど、子どもも一緒に楽しめる内容で、当日は市内外からブース全体で約 1000 人の方にご来場いただきました。雨水浸透ますの模型を見ながら職員の説明を受ける市民の方もいらっしゃいました。



サポーター活動報告

●神代農場などを見学しました

4月27日、サポーター草木さんの呼びかけで、調布市にある神代農場、神代自然公園、調布野草園を見学いたしました。今回の参加者は全部で16名。農園の中は、湧水が流れておりましたが、チョロチョロ。昔は今よりも多く湧き出ていたとの草木さんからの説明や土地の歴史についての話に耳を傾け、うなづく場面が多く見られました。

農園内では、カタクリやタケノコ、ワサビの栽培も行っており、自然に満ち溢れた緑の空間の中、深呼吸がいつもより自然と大きくなります。

●サポーターミーティングを行いました

大型連休を目前に控えた4月28日(金)、市役所812会議室にて、6名のサポーターが参加してミーティングを行いました。2017年度の連続講座へのサポーターのかかわり方や、各種水環境イベントなどについて話し合い、各々の近況報告も行いました。

●プロジェクト WET エducator 講習会を行いました

水の学校では、毎年度の連続講座で、名誉校長の橋本先生が実施するプロジェクト WET のアクティビティを体験しています。5月20日(土)、サポーターの皆さん自身の学びをより深め、さらに伝える手法を習得していただくため、水の学校としては初めて「プロジェクト WET」を教える側になれるエドゥケーター講習会を行いました。外は夏日という陽気の中、参加したサポーター6名全員がエドゥケーター資格を取得しました。水の学校の講座をはじめ、これからさまざまな場面での活躍が期待されます。

「水の学校」サポーターとは? : 2014~16年度の連続講座修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。

わたしたちが担当しています! 「水の学校」事務局(武蔵野市環境部下水道課)のご紹介

「水の学校」の事務局、どこが担当しているかご存知でしたか? 武蔵野市環境部下水道課は、武蔵野市役所西棟2階にあります。限られた財源の中で、下水道施設の老朽化対策、都市型浸水や地震への対応、湧水復活などの多様な課題を着実に解決し、サービスを継続していくことが私たちの仕事です。下水道施設を長持ちさせたり、よりよい水の循環をつくりだしたりするためには市民の皆様のご協力が不可欠です。そこで、下水道課では、水の学校をはじめとする啓発事業にも力を入れています。